

## 石屋さんのお墓参り 初回号!!

お墓参り… 皆さまはお墓参りと聞いてどんなイメージをお持ちでしょうか？小さい頃は家族や親戚に手を引かれ、半ば記憶にはないご先祖様のお墓の前で手を合わせる、そんな経験をされた方も多いと思います。お墓では眠られている大切な方に近況の報告をしたり感謝の想いを伝えたり、人によってその背景は様々です。では、そのお墓を本業とする石屋さん(墓石店)の社長たちは、一体どのような想いでお墓参りをされているのでしょうか？日頃知ることのできない石屋さんの社長自身のお墓参りについて、『日本墓石店100選』に入っている石屋さんに、自身のお墓にまつわる秘話や思い出をお話いただきました。どうぞご覧ください。

## ●今月の石屋さん●

## 射場石利石材株式会社代表取締役社長 射場一之様

今年、私は年間100回自分の家の墓参りをすることを目標の一つにしています。年当初は300回を目標に掲げていたのですが、予想以上に出張の機会が多く、物理的に無理なので下方修正をしました。

出張に出る時などを除いて、私は朝5時に起きます。そして、わが家のお墓のある墓地までジョギングをし、ご先祖さまと叔父に朝のごあいさつをします。正直に言うと、ご先祖さまに朝のごあいさつをするためにジョギングをしているわけではないのであまり偉そうなことは言えませんが、そ



れでも1週間に4~5回はお墓参りをしていることになります。夏の朝は気持ちのよいものですが、冬は、朝のあいさつを終えてさらに少しジョギングをし、家に帰ってシャワーを浴び朝食を終える頃になって、ようやく朝日が昇ってきます。

わが家のお墓には、私が大学生のころに亡くなった祖母と、この世では会うことができなかった祖父や、さらにその前のご先祖さまが何人も眠っています。最近では、海や山にお骨をまく人もいますが、私なら仮にそんな遺言があったとしても、けっしてそんなことはしません。なぜなら、ご先祖さまとふれあうことができなくなるような気がするからです。お盆のお屋敷にお墓参りに行ってお墓に触ってみると、思わず手を引っ込めるほど熱くなっています。真冬の早朝にお参りして触ってみると、その冷たさに驚きます。それはまるで、ご先祖さまがいたずらをして「ははは、びっくりしたか?」と言って笑っているかのようです。いいえ、錯覚ではありません。お墓に触れることで確かにご先祖さまの声が聞こえてくるような気がします。ご先祖さまとそんな無言の対話ができるのも、お墓という「すがた・かたち」があるからだと思います。



	射場家	先祖代々
建立時期	昭和49年	明治15年
建立者	射場ジュ他	儀定
石種(お石塔)	庵治細目石	砂岩
石種(外柵ほか)	小海石(小豆島産)	
才数合計	8寸二重台	9寸二重台

私は、お墓に触れるたびに命のつながりを感じます。お墓は時代を超えて私とご先祖さまを、私と子孫たちをつないでくれます。

石には人智を超えた何か大きな力が宿るような気がします。石は、時代を超えてそこに存在し続けることのできる自然の恵みです。だからこそ、人は太古の昔からお墓に石を使ってきたのでしょう。お墓は愛。お墓は優しさ。お墓は力。墓地は微笑みをつくる場所。お墓は家族の絆を結び、人と人との心を結びます。お墓は時空を跳んで、明るい希望と輝く未来を創ります。お墓、それは心の豊かさを手に入れる鍵、大切な“しあわせの鍵”だと思います。

## ●次回の石屋さん●

茨城県 有限会社坂口石材工芸 坂口 登 様  
栃木県 有限会社笹川石材店 笹川 敏男 様

